

# 令和5年度 三原小学校 授業改善推進プラン

教科	学年	課題	原因	課題解決のための方策
国語	1・2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面の様子を十分にイメージすることができず、事柄の順序や言葉の意味の理解が不十分である。</li> <li>伝えたいことを文章で表現する力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙が少なく、一つ一つの言葉の意味をはっきりと理解できていない。</li> <li>文章を書く経験が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひらがなやかたかな、漢字などを書きとる時間を毎時間設け、繰り返し練習する。</li> <li>物語文の学習では、文章からイメージするものを絵に描かせてから、それをもとに発表するなど、思考を具体化しやすい授業を展開する。</li> <li>文章を読んで想像したことを発表したり、同じ文章を繰り返し音読したりする活動を通して、文章の内容を順序やまとまりごとにとらえる力を付けさせる。</li> <li>読書活動や暗唱を行い、豊かな言語文化に触れることで語彙を増やす。</li> </ul>
	3・4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語文では、登場人物の心情を叙述から読み取る力が不十分である。</li> <li>説明文では、文章構成の理解が不十分である。</li> <li>物語文、説明文、それぞれを読み解く力を向上させる。</li> <li>言語や文法に関する基礎的な知識を確実に身に付けさせる。</li> <li>文章の構成を考えて、自分の考えが伝わりやすい文章で書く力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な言語事項の定着や漢字の定着が不十分である。</li> <li>それぞれの文章構成の違いが明確に意識出来ていない。</li> <li>接続語などの言葉の役割を理解できていないため、段落相互の関係が理解できていない。</li> <li>文章の構成を意識して読んだり、書いたりする経験が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語文と説明文、それぞれの文章構成を確かめながら読む・書く経験を積ませる。</li> <li>学校図書館や読書会などの機会を活用し、様々なジャンルの書籍に親しませる。</li> <li>漢字の読み書き、基礎的な言語事項については、スモールステップを生かした小テストを繰り返し、自身でチェックし、学習の中でPDCAサイクルが生まれるようにする。</li> <li>言語、文法においては、日常生活の中で活用できるように繰り返し指導していく。</li> <li>文章モデルを提示し、分析してから活用する場を作ると同時に、他教科を含めて設定する。</li> </ul>
	5・6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じて読んだり、要点を掴んだり、伝えたいことを明確にして書いたりする力を身に付けさせる必要がある。</li> <li>言語や文法に関する知識を身に付け、活用方法を日常生活と結び付けて考えさせる必要がある。</li> <li>語彙力が足りていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的をもって読むこと、書くことの経験が不十分である。</li> <li>要点を掴む活動が十分でない。</li> <li>書いた文章を推敲する習慣が身に付いていない。</li> <li>漢字や言語事項の習得や活用に重点を置いた指導が十分でない。</li> <li>日常で触れている言葉数が少なかったり、限られてしまったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的をもって読んだり書いたりする力を高めるために、毎単元において、学習意欲をもってねらいを達成することができる言語活動を設定することに加え、個に応じた添削指導や推敲する習慣を付けさせる声かけを継続的に行う。</li> <li>書いたものを友達同士で読み合い感想を伝え合う活動を通して、文章を推敲する視点を身に付けさせる。</li> <li>日常的に作文指導を行い、文章を書くことへの苦手意識を減らす。</li> <li>説明文や物語文を扱う際に、ポイントを明確にして読んだり、大まかな内容をおさえて書いたり説明したりする活動を取り入れ、要点をつかんで読む習慣を付けていく。</li> <li>新出漢字の指導時に凡例を示したり、関連した慣用語を紹介したりするなど、言語事項と日常生活を結び付け、児童が具体的なイメージをもって学んだり、日頃から漢字を使ったりする習慣を付けられるようにする。</li> <li>漢字や言語事項については習熟プリント等を活用して繰り返し学習し、既習事項に何度も取り組むことで習熟度を高める。</li> <li>読む本のジャンルを指定して読ませたり、映像作品を見せたりするなどして、友達や親子と使っている言葉以外の言葉に触れる機会を作る。</li> </ul>

算 数	1 ・ 2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を正しく読み取り、その問題に合った立式ができるようにする必要がある。</li> <li>・たし算、ひき算、かけ算を正しくすらすらと行うことができるようにする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章から問題場面を捉えることが十分にできていない。</li> <li>・取り組む問題数が少なく、計算の仕方が定着していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を区切って読み取ったことを、絵や図に表したり、アンダーラインを引いたり、文章題のイメージをてるようにする。</li> <li>・ドリル、プリント学習に取り組む時間を週単位で倍増させ、正確に計算する方法を身に付けさせる。小テストも単元ごとに行い、満点を取るまで繰り返し取り組ませる。</li> </ul>
	3 ・ 4 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前学年で学習した既習事項の定着が図れていない部分がある。</li> <li>・題意を読み取り、立式を正確に行わせる必要がある。</li> <li>・図形の性質や時間のしくみを正確に理解させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の多様な特性に合わせた指導を工夫する必要がある。</li> <li>・題意がイメージできていない。</li> <li>・図形にふれる機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スパイラルな学習を意識し、新単元の導入では、前学年の関連単元での既習事項を復習し、確実に定着させながら進めていく。例えば左利きの児童には逆向きの百マス計算プリントを用意するなど、つまずきのポイントを明確化してから指導にあたるようにする。</li> <li>・文章、図、式の関連を考えつつ、3種類に置き換えながら説明することにより、量感覚・数感覚をもって思考出来るようにする。</li> <li>・具体物を活用し、操作しながら思考できる時間を確保する。</li> <li>・図・文章題・立式の関係性を、記号や色分けなどにより明確化して伝えることを心掛ける。10進法、12進法、60進法などの違いを意識した指導を行う。</li> </ul>
	5 ・ 6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算などの基礎・基本的な技能や文章題の立式に課題がある児童がいる。</li> <li>・数学的な考え方をもとに、思考・判断・表現する力を伸ばしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の主体性を十分引き出すことができていない。また、習熟が十分ではない。</li> <li>・自分の考えを表現する活動に改善が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が「解決したい」と感じる問題や発問を工夫し、主体的な学習が進められるようにする。毎時間の中で、自力解決の時間や習熟を図る時間を確保するとともに、必要に応じて個別指導を行い一人一人に基礎学力や技能が確実に身に付くようにする。</li> <li>・計算で答えを求めるだけでなく、図や式、数直線などを用いて、どのように考えたかを記述したり、説明したりする機会を保障する。そのために、「まず」「次に」「最後に」などの言葉を使い、筋道を立てて説明できるように支援する。</li> </ul>

社 会	3 ・ 4 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図記号や都道府県名など基礎的な知識を身に付けさせる必要がある。</li> <li>・グラフから数値や地図から位置関係等を読み取る力を必要が付けるある。</li> <li>・主体的に問題を解決しようとする態度が養っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識を確認する時間が十分確保されていない。</li> <li>・グラフや資料等を活用した授業展開が少ない。</li> <li>・自分で考え、まとめる経験が少ない。</li> <li>・島の特性と教材が合わないため、自分事として捉えることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を教室にも掲示し、小まめに確認し続けることで一人一人が覚えられるようにする。</li> <li>・習熟プリントや家庭学習などを活用し、少しずつ、長く多く都道府県名に触れるような工夫をする。</li> <li>・ICT 機器を活用し、交流学习など、主体的に楽しく深く学ぶ機会を増やすようにする。</li> <li>・単元の終末は、他の教科とも関連させながら、学んだことを明確にしたパンフレットや新聞を作成する活動を取り入れる。</li> <li>・都道府県など、教室の中に常時掲示して目に触れる機会を増やすことを心がける。</li> <li>・副読本を活用しながらも、児童にとって身近な事物を取り上げることで、少しでも日常生活と関連させて、問題を解決しようとする態度を育てていく。</li> </ul>
	5 ・ 6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の資料から情報を正しくつかみ取ったり、比べて考えたりする力を身に付けさせる必要がある。</li> <li>・社会的な事象に関する基礎的な知識が足りていない。</li> <li>・地図帳を活用する機会が少なく、全員の見方が定着していない。</li> <li>・日常生活における事象と結びついておらず、実感を伴っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく読み取る力は身に付いてきているが、複数の資料を見比べる習慣が付いていなかったり、自分の考えをもったり、伝えたりする機会が多くない。</li> <li>・地図記号や都道府県、東京都内の地理関係等に関する知識が不足している。</li> <li>・様々な社会的事象を日常生活と関連付けて考える活動が十分に設定できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決型の学習を基本とし、教科書や資料集から情報をつかんだり、複数の資料を見比べて事実と自分の考えをノートやスライドに整理してまとめたりすることを継続的に行うようにする。資料提示の際には、ICT機器を効果的に活用し、具体的なイメージがもてるようにする。</li> <li>・単元で学習したことをまとめて表現する機会を作り、効果的な資料を選ぶことで、資料に対する見方や考え方を広げる。</li> <li>・ペアや小グループで自分の考えを伝え合う場面を毎時間設定し、自らの考えを広げたり深めたりできるようにする。</li> <li>・気になったニュースの情報やそれについての考えなどを児童と話し合い、日常の中で社会とのつながりを意識できるようにする。</li> <li>・地図帳などを活用し、記号や説明を見取る場面を、授業内で取り入れる。また、わたしたちの東京都の内容も折に触れて行い、最低限おさえるべき事柄については学習する機会を保障する。</li> <li>・確実に身に付けておかなければならない基礎的な知識及び重要な語句については、単元を問わずに学習内容と関連付けて確認を行うなど継続的に、指導を行っていく。その際には、写真や映像などを活用して日常生活と結び付けて確認できるような工夫をする。</li> </ul>

理科	3 ・ 4 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活環境と結び付けて考える習慣が身に付いていない。</li> <li>実験器具や生活における基礎的な知識の習得が不足している。</li> <li>生物単元や気象に関する単元では、八丈島の気候風土では体験し難い教材がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活環境と結び付けるイメージをもてない。</li> <li>実験器具の使用機会が少ない。理科室の利用も少ない。</li> <li>海洋性気候、温暖な気候による教科書教材との生息生物のズレ、気象条件のズレ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実体験が難しい教材に関しては、ICT機器を活用した動画や画像の提示を行い興味・関心を高めて授業に臨めるように留意する。</li> <li>日常生活場面における理科学事象について、実生活の振り返りや、日々の生活へと還元出来るような学びとなるように留意する。</li> <li>理科室を計画的に利用し、実験器具の紹介をしたり、実験の際にワークシートなどで名前や用途を確認したりすることで、知識を確実に習得させる。</li> <li>思考過程の掲示をテンプレート化し、理科室や教室に置いて授業で常時活用できるようにする。国語科の説明文や総合的な学習の時間の思考過程ともリンクさせ、論拠をもって論理的に結論へとたどり着けるようにする。</li> </ul>
	5 ・ 6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の興味・関心は高い一方、資質能力を十分に伸ばすことができていない。</li> <li>実験を正しく行い、結果を適切に記録できるが、考察が不十分な児童が多く、日常生活に関連付けて理解することができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の課題意識を基にした主体的な学習の進め方に課題がある。</li> <li>日常生活において、科学的な思考をもって物事を見る習慣がほとんどなく、知識が具体的なイメージや事象と結びついていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や身の回りの事象から問題意識をもち、課題の解決に向けた主体的な学習が進められるようにする。また、実験や観察、体験的な活動の場を多く設定し、自分の予想を実際に確かめることができるように授業づくりを行う。</li> <li>考察の視点を明確にしたり、複数の実験結果を比べたりすることができるように指導する。また、結果を基に考察する時間を十分確保した上で、グループで意見を交換し、自分の考えを深める。理科の授業時間に限らず、日常生活において天気を判断したり、風や月の動く方向を見たりと既習事項を再確認する場面を作り出していく。</li> </ul>
生活	1 ・ 2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然との関わりを大切にし、自分の生活と自然との関わり、地域との関わりを考えさせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶を始め、地域との関わりが受け身であり、自主的に関わろうとする力が育っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園児に遊び方を教える、保育園児に校舎を案内するなど、保育園との交流を積極的に取り入れ、相手意識をもった授業を展開する。</li> <li>栽培や郷土料理づくりなどでゲストティーチャーとの関わりを増やし、感謝の気持ちを育み、自分を取り巻く地域社会への理解と愛着が深まるような活動を取り入れる。</li> <li>感じ取った内容や『気づき』を書いたり、発表したりする活動を取り入れていく。</li> </ul>

音	1 ・ 2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞から動きを想像する際に、考えることが難しいことがある。</li> <li>鍵盤ハーモニカの運指の習得に時間を要する児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までの経験や、音楽に対する感性・技能などに個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲に合った写真やイラストを掲示し、曲に対するイメージを膨らませて想像することができるようにする。</li> <li>初めて練習をする際に、きちんと運指を覚えることができるよう、丁寧に指導する。個人練習を行う時間の確保をし、一人一人が確実に習得できるように、必要に応じて個別に指導したり一緒に練習したりする。</li> </ul>	
	3 ・ 4 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現力・想像力をさらに育て、歌唱や合奏に生かす必要がある。</li> <li>リコーダーの運指の習得に個人差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が見たことのないものや、経験したことのないことを想像することが難しいと感じる。</li> <li>経験や技能の習得に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真を見せたり、児童が想像を膨らませることができるような話をしたりして、イメージを豊かにして合唱や合奏に生かすことができるようにする。</li> <li>最初に習得する時に、全員が確実に指遣いを覚えられるよう、テナーリコーダーで実際に教員が例示しながら理解できるようにする。</li> <li>教え合い・学び合い、スモールステップでの指導を心掛け、児童全員の習得を目指す。</li> </ul>	
	楽	5 ・ 6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったり演奏したりできる表現力に課題がある。</li> <li>器楽の学習では、楽器の技術面において個人差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いをもつことはできるが、表現の支えとなる音楽の要素や仕組みが身に付いていない。</li> <li>習い事(ピアノなど楽器類)の経験の差や音楽の技能等に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[共通事項]を軸に、表現(歌唱・器楽・音楽づくり)と鑑賞の中で、音楽の要素や仕組みを関連付けて取り扱う。</li> <li>ペアやトリオ学習を取り入れ、友達と音や言葉でコミュニケーションを図り、共有したり共感したりすることで、自分たちの生活と音楽とを結び付けていく。</li> </ul>
		1 ・ 2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像を広げ、工夫するなどの表現に個人差が見られる。</li> <li>道具の使い方やかたどりなどの技能面で個人差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの作品に出会ったり、触れたりする機会が少ない。</li> <li>道具の使用などの生活体験に偏りが生じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物を見せたり、具体的に助言したり、他の作品を鑑賞させたりすることで、自分のイメージを広げ、いろいろな作品に触れさせるようにする。</li> <li>鑑賞の視点を『色・形・感じ』に絞ることで表現しやすくする。</li> <li>指先や五感を使って取り組む活動を授業に取り入れるとともに、道具の使い方を十分指導したうえで作業時間を十分確保する。</li> </ul>
図 工	3 ・ 4 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>さらに工夫を加えたり、最後まで丁寧に仕上げようとしたりするなど意欲面や集中力に個人差が見られる。</li> <li>自分の成果物に自信をもつことができない児童がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心に偏りがあり、集中力の持続が難しい。</li> <li>自分の成果物を価値付けされる習慣や機会が乏しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科、総合的な学習の時間とのカリキュラムマネジメントを工夫する。</li> <li>活動の見通し、計画を自ら立てられるように紙媒体の単元学習カードを導入する。</li> <li>ICT 機器を活用し作品例を提示したりしながら、興味関心を広げ、作品作りに取り組めるようにする。</li> <li>教師が作品のよいところの視点をしばって紹介したり、工夫をしようとしていた姿勢を褒めたりすることで、意欲が持続するようにする。</li> <li>鑑賞の時間の確保。鑑賞→相互評価→自己評価の流れで鑑賞を行い、成果物や工夫の過程を肯定的にとらえられるようにする。</li> <li>様々な材料や道具に触れられる機会を授業の中で十分確保する。他教科で学習したことを思い出させ、図工の作品作りでも生かせるようにアドバイスをする。</li> </ul>	
	5 ・ 6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>題材によって発想や技能の個人差が大きく、作業時間もかかってしまうことがある。</li> <li>鑑賞の視点や表現力を広げる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の見通しがもてていない。</li> <li>様々な芸術作品を鑑賞したり、触れたりする機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムマネジメントを工夫したり、ICT 機器を活用したりしながら、活動時間を充分確保し、学習内容を厳選し、児童が見通しをもって進められるようにする。</li> <li>一単位時間の流れ、単元の流れを明確にする。(板書、学習カード)</li> <li>デジタルポートフォリオを作り、自身の活動の足跡を残し振り返りながら、成長を感得させる。</li> <li>タイマーを使い活動時間を視覚化する。</li> <li>学習カードを用意し、学習内容を児童自身が確認しながら、めあての振り返りを行えるようにする。</li> <li>鑑賞の時間を設定し、言語活動と結びつけながら指導したり、他学年と交流したりしながら、鑑賞活動が自分の作品の表現に結びつくようにする。</li> </ul>	

家庭	5・6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した知識や技能などを家庭生活や学校生活における実践へ繋げる意識をもたせる。</li> <li>・課題設定を自ら行う習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人によって経験の差がある。</li> <li>・他の教科で学習して身に付けた力を汎用すること経験が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活、社会生活との関連性を見出し、学習の価値を児童と共に見直していく。持続可能な社会の担い手としての新たな価値観や創意工夫を創発する。</li> <li>・その学年の児童の実態に合った思考ツールを使用して、思考の整理、構造化する経験を多く積めるようにする。</li> <li>・他の教科と関連させ、担任とも協力しながら総合的な学習の時間を活用して、カリキュラムを工夫する。他の教科で学習したことを想起させる時間を設ける。</li> </ul>
	体育	1・2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の様々な部位を動かし、多様な動きを体験する機会を積み重ねる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の部位を意識した活動をしたことがあまり多くない。</li> </ul>
3・4年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に対する意識や運動技量の個人差が大きい。</li> <li>・基礎体力の高さが技能面の高さへ結びついていない部分がある。</li> <li>・運動の行い方を工夫したり、それらを言語で表現したりすることに課題がある児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動経験の違いや休み時間の過ごし方などに偏りがある。</li> <li>・効率的な動きを意識した体の動かし方を感じられていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「意図する動き」が出来るようにタブレットなどを活用し、自身の運動をチェック出来る機会を意図的に増やす。</li> <li>・学習カードなどを活用して自己の運動を振り返り、自己の課題をつかみ、また課題解決のために、どのような運動を行うか考えたことを表現する機会を設ける。掲示物などを作成して運動の特性をつかむ時間をつくる。</li> <li>・1単位時間における運動量の確保と運動の質的充実を行う。</li> </ul>
5・6年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に運動に親しむ子とそうでない子の二極化の傾向が見られる。</li> <li>・運動の行い方を工夫したり、それらを言語で表現したりすることに課題がある児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動する楽しさを児童が十分に感じることができていない。特に、「鉄棒運動」をはじめとした器械運動領域に楽しさを感じられていない。</li> <li>・児童も教師も「知識・技能」の習得に重きを置いている傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の特性を明らかにし、すべての児童がそれらを味わうことができるように指導と評価の計画を作成する。今できる力でも楽しむことができることから始め、自分の課題を見つけていけるように授業づくりを行う。運動の日常化につなげることを意識した授業づくりを行う。</li> <li>・ICT を活用しながら、自己の動きを確認したり、ペアやトリオで互いの動きを見合ったりして、自分や友達の課題を捉えることができるようにする。また、それらの課題の解決に向けた活動を工夫していく主体的な活動を通して、3つの資質能力をバランスよく身に付ける。</li> </ul>